

2004年冬研究講義課題
京都・高雄病院 内田隆一先生

1. 漢方医学と現代医学、どこが同じでどこが違うと思いますか？
2. 漢方薬で治しやすい病気、治せない病気、治しにくいけれども何とかできるかもしれない病気はどのようなでしょうか？あなたは漢方に何を求めますか？
3. 虚とは足りないことで、実とは多すぎることでよく言われます。これは本当でしょうか？例えば、「虚している人には補剤を投与する」といいます。「気が虚している人には補気剤を、血が虚している人には補血剤を、腎が虚している人には補腎剤を投与するとよく言います」。では、その補うべき気や血や腎(腎気)はその薬(補剤)の中に入っているのでしょうか？あるいはもしそうでなければ、(1)どこから、(2)どうやって生じるのでしょうか？
4. 熱のために汗をかいて弱っている人がいたとします。このときこの人において順序的にも、量的にも一番に失われたものは何でしょうか？逆の聞き方をすれば、熱は何をを素(原料)として生じているのでしょうか？実熱、虚熱、各々の場合でどうでしょうか？そしてそのときの治療の戦略としてどのような方法が考えられますか？
5. 陰陽の説明で中医学の教科書的にはよく4つのポイントが挙げられます。すなわち(1)陰陽対立、(2)陰陽消長、(3)陰陽互根、(4)陰陽転化です。ではこの4つのなかで何が最も陰陽論の本質を言い表していると思いますか？(ちょっと、マニアックすぎかな？)
6. 患者さんは同時に色々な症状や色々な診察所見(望診、聞診、脈診、腹診、舌診、その他現代医学的診察所見)を現します。診断(弁証)においてそれらすべてを説明することは可能でしょうか？言い方を変えれば、所見のすべてを説明できる診断(弁証)というのは臨床的に意味があると思いますか？もし、「全て」を求めることが不可能あるいは意味がないとするなら、色々な所見のうち何が診断・治療(弁証論治)において大事だと思いますか？